



火口上の噴煙が赤く照らされた浅間山=3日前
1時、群馬県嬬恋村から(まえちゃんねっと提供)

警戒レベル「3」(入山規制)は継続。火口上
の噴煙が赤く照らされた浅間山=3日前
1時、群馬県嬬恋村から(まえちゃんねっと提供)

気象庁は三日前、浅間山一統。火口から半径四キの範囲(二、五六八㍍)は二日前明の小噴火後、短周期の地震の回数が減り、傾斜変化も緩やかになったとし、「噴火が切迫している」状態は解消されたと発表した。火山活動はまだ活発な状態で、噴火警戒レベル「3」(入山規制)は継続。

同庁浅間山火山防災連絡事務所(北佐久郡軽井沢町)によると、火山性地震は、三日は午前十一時半までで三百四十六回だった。噴火前

に増える短周期の地震の割合も減り、噴火前に観測していた地面の膨張も落ち着いているといふ。

ただ、噴煙量や火山ガスの放出量は依然多い。前川和宏所長は、二〇〇四年九月の噴火時も約三ヶ月、噴火と小康状態を繰り返したとし、「今後も噴火が起きる可能性はある」と説明。半径四キ内では、引き続き大きな噴石の飛来に警戒が必要と指摘した。

噴火警戒レベルを引き上げた一日午後から全面通行止めとなっていた有料道路「鬼押ハイウェイ」と「白糸ハイランドウェイ」は三日前九時半、通行止めが解除された。ソフトウェア開発などを手掛ける千葉市の前嶋美紀さん(46)が運営する「まえちゃんねつ」とは、山麓に設置されたカメラ二台で浅間山を二十四時間撮影し、ホームページで画像を公開。三日前明の画像では、火口上の噴煙が赤く照らし出された。

浅間山「噴火の切迫解消」 気象庁入山規制は継続